

## 大阪大学野田村サテライト

### 未来共生履修生フィールドワーク事前説明会 開催報告

未来共生イノベーター博士課程プログラムの必修科目である『コミュニティ・ワーク』の授業の一環として、8月18日～27日の10日間、岩手県野田村、宮城県気仙沼市、宮城県南三陸町の3つの地域でフィールドワークを行います。当該授業は、その土地の歴史や文化の理解に努め、地域の人々との対話を通じて、地域復興、活性化の道を学生なりに探ることを目的としています。フィールドワーク最終日には、履修生15名と教員10名が一堂に会し、フィールドワークの成果報告会を野田村サテライトより行う予定です。

そこで、授業に先立ち、ご協力いただく30数名の野田村民の皆様が集まっていただき、事前説明会を開催しました。野田村のコミュニティの再生、活性化に向けて日々努力されている、漁業組合の方、仮設住宅自治会の方、農業に従事されている方、伝統文化行事のリーダーの方など、様々な職業や立場の方々に学生との「対話（ヒアリング）」にご協力をお願いしています。

説明会当日は、はじめに渥美公秀先生より、協力依頼の挨拶を行い、当該プログラムの概要ならびにフィールドワークのスケジュールについてお話ししました。渥美先生は「皆様のお仕事に差し支えない範囲で、学生の話し相手になってもらえるとうれしいです。都合がつかない場合は遠慮なく断ってください。ヒアリングの約束がとれない、聞きたいことが上手に聞けないなど、失敗することも勉強だと思っています。」と説明しました。



趣旨を説明する渥美先生



大学から自己紹介する履修生

会の後半は遠隔システムを通じて大阪大学のキャンパスにいる、履修生の自己紹介です。一人ひとりネームカードを持って、簡単な自己紹介を行いました。

震災直後から野田村でボランティア活動を行っている渥美研究室の塩田君も参加してくれたことから、野田村の皆さんから「元気になっている～」と声がかかり、和やかな雰囲気になりました。最後には、気仙沼チームが合流し、次々と学生の自己紹介が行われ、未来共生のにぎやかな様子を野田村の皆様少し感じていただけたと思います。

説明会終了後も意見交換が続き、未来共生のスタッフと村民の方々、また村民の方々同士の交流が深まりました。



熱心に聴いてくださる村民の方々

以上